酒を勧む　于武陵

君に勧む金屈巵
満酌辞するを須いず
花発いて風雨多し
人生別離足る

【作者】于武陵（八一〇～？年）・中国・唐の詩人。杜曲（陝西省西安市の南郊）の出身。名は鄴（ぎょう）。武陵は字であるが、通常は字で呼ばれていた。宣宗の大中年間（835 年頃）に進士となったが、官界の生活に望みを絶ち、書物と琴とを携えて天下を放浪し、時には易者となったこともある。洞庭湖付近の風物を愛し、定住したいと希望したが果たせず、嵩山（すうざん）の南に隠棲した。今、『于武陵集』一巻が残っている。作品に、『勧酒（かんしゅ）』（五言絶句）がある。井伏鱒二の訳詩集『厄除け詩集』に収録された訳詩が有名である。

【語釈】＊勧酒…作者が友人と別れる時の餞別の宴とその時の詩。　＊金屈巵…曲がったとっての附いた黄金の杯。　＊巵…杯。さかづき。
＊満酌…酒をなみなみと杯につぐ。いっぱいになった杯。　＊辭…辞退する。遠慮する。断る。

【通釈】あなたに、曲がった取っ手の附いた黄金の杯（にいっぱいにつがれたお酒）をお勧めする。杯にいっぱいにつがれた酒を、辞退しないでほしい。
花が咲けば、（咲いた花にとっての障碍となる）風や雨が多く襲ってくる。人が生きていくと、別離も多くある。